

胃の平滑筋肉腫はその良・悪性をめぐって随分と議論されてきた。その初期には、腫瘍の大きさが5 cm以上であることや、表面に潰瘍を伴うことが、良・悪性の目安となっていた。また、組織学的には核分裂や細胞成分の多寡などが良・悪性の鑑別点とされてきた。しかし最近では、平滑筋肉腫であってもその悪性度が問題とされるようになってきている。悪性度の判定には従来、細胞分裂数が指標とされてきたが、これは観察する病理医によりその判定が異なったり、あるいは固定条件の違いにより分裂数に変化があるなどの問題が指摘されてきた。その点、本特集では病理学的に新しい悪性度の判定として細胞増殖活性の検索などが役立つことが示されている。これは今までの判定からみれば更に客観的指標となるものである。

また、臨床的には腫瘍の doubling time がおよそ2年を境として良・悪性の鑑別ができることがほぼ一致した意見として示された。それを裏付ける主題症例の呈示もあり、読者にとって今後の日常診療に役立つと思われる。

病理学的には欧米を中心として平滑筋性腫瘍を含めた紡錘形細胞腫瘍は stromal cell tumor としてまとめられつつある。この点に関しては、松田論文でも触れられているように多くの問題が病理学的に残されており、今後細胞の形態分化と機能分化の面から更に検討する必要性が示唆されている。stromal cell tumor は形態像を無視し、免疫染色にとらわれた結果の病理診断であり、病理医も更なる形態診断の重要性を認識する必要がある。

胃と腸

9月号 (第30巻・第10号) 予告

発売予定 9月25日
定価 2,060円(税込)

主題／微小胃癌

序 説	微小胃癌	周東総合病院	岡崎 幸紀
主 題	微小胃癌の臨床診断の限界—特に内視鏡診断について	北里大東病院・内	大井田正人・他
	拡大内視鏡観察からみた微小胃癌の臨床診断の限界	都立駒込病院・内	榊 信廣・他
	微小胃癌の臨床診断の限界	松山日赤病院・消	測上 忠彦・他
	微小胃癌とびらん鑑別診断	早期胃癌検診協会	富松 久信・他
	微小未分化型胃癌のERの適応—臨床の立場から	社会保険中央総合病院・消	浜田 勉・他
	微小未分化型胃癌のERの適応—病理の立場から	癌研・病理	加藤 洋・他
	微小胃癌の病理—組織学的種々像と鑑別診断	新潟大・1病理	西倉 健・他
	微小胃癌の病理—遺伝子解析	癌研・病理	柳澤 昭夫・他
主題研究	微小胃癌と背景粘膜	癌研・内科	馬場 保昌・他

胃と腸 (第30巻 第9号)

編集 早期胃癌研究会

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷 5-24-3

☎ 本誌編集室直通 (03) 3817-5714

販売部直通 (03) 3817-5659

1995年8月25日発行(毎月25日発行)

1部定価 2,060円(本体2,000円)(配送料124円)

1995年年々ぎめ予約購読料 28,000円(本体27,184円)

(増刊号4,120円を含む13冊)(送料弊社負担)

FAX (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693

印刷所 永和印刷(株) ☎ (03) 3813-5001

広告取扱 医界弘報社 ☎ (03) 3814-5771

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1995, Printed in Japan.
- 本誌に掲載された著作物の複写・転載およびデータベースへの取り込みに関する許諾権は医学書院が保有しています。
- **R** <日本複写権センター委託出版物・特別扱い>
- 本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。本誌は日本複写権センターの特別委託出版物です。複写される場合は、そのつど事前に日本複写権センター(03-3401-2382)の許諾を得てください。

(担当)小松原・竹中・江口・長谷川